

第3回 日本視機能看護学会会員情報交換会報告

■テーマ： 「点眼指導における点眼手技の工夫について」の取り組み
～自己管理に向けての指導の工夫～

■日時：2021年3月6日（土） 14：00～15：10

■方法：ZOOMによる意見交換会

■参加人数：8名（日本視機能看護学会役員含む）

■アドバイザー：医療法人社団済安堂 井上眼科病院 薬剤課 課長 高橋嘉子先生、
日本視機能看護学会 大音清香名誉理事長



今回は、点眼指導における点眼手技の工夫をテーマに、各施設で行っている点眼手技の指導の工夫やツール、指導のタイミングと点眼指導における課題について意見交換会を行いました。

点眼指導における手技の工夫としては、点眼補助具は市販されているものだけではなく、アイデアとして、100円均一グッズにもある袋止めクリップやトイレットペーパーの芯、割りばしなどを活用して点眼補助具を作成し有効に活用されていました。

作成方法と活用方法についても詳しく説明してくださり、自施設でも試みることができると感じたので、意見交換会の録画が役立ちそうです。

更には、実際の患者さんの点眼手技を分析すること事ができる点眼センサーを開発し、その結果から自宅で患者さんがどのように点眼をされているかを推測し、考察して指導に役立てていくというご紹介もあり、大変興味深い内容でした。

アドバイザーの高橋先生から、医療連携の中での点眼指導におけるツールやその工夫について、臨床経験をもとにご教授頂き、対象患者さんによって、幅広い課題があることを改めて実感することができました。今後、緑内障患者さんのアドヒアランスの向上を目的とした点眼指導についても企画を考えており、高橋先生にはぜひ再度アドバイザーとしてご参加頂きたいと考えております。

